

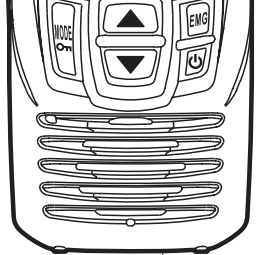
STANDARD

特定小電力トランシーバー

FTH-80

取扱説明書

47チャンネル



当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。お読みになった後は、大切に保管してください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。



正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

八重洲無線株式会社 国内営業部
〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル
電話：03-6711-4055

バーテックススタンダードLMR合同会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-6-8 田町ファースビル (6階)
©2013 Vertex Standard LMR, Inc. All rights reserved.



付属品

ベルトクリップ（取付け用ビスも含む）..... 1
アルカリ単3乾電池ケース..... 1
取扱説明書（本書）..... 1
安全上のご注意..... 1
保証書..... 1

お客様へ

●防水（防噴流）について

外部マイク接続時は防噴流にはなりません。外部マイク接続時に雨天等でご利用になる場合は、外部マイクのケーブルを伝わってトランシーバー内部に水が入らないようご注意ください。故障の原因となります。

本機の防水性能を未永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

キズ、劣化、外れ、汚れなどの確認

- ボタンやスイッチ類のラバー
- MICジャック、SPジャックのキャップ
- 電池ケースの防水パッキン

お手入れのしかた

水・砂・泥などがついたときは、柔らかいきれいな布で拭きとってください。必ず MIC ジャック、SP ジャックのキャップと、電池ケースを確実に閉めた状態で拭きとってください。

オーバーホールのお奨め

お買い上げから1年経過後は、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めします。また、オーバーホール後も定期的なメンテナンスをお奨めします。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

●アフターサービス

◎保証期間はお買い上げの日より1か年です。

本製品には保証書が添付されています。お買い上げいただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

過失など、故障内容によっては、保証期間中であっても有償修理の対象となる場合があります。

◎保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、お買い上げ日・販売店名等の必要事項が記入していない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

故障かな？と思ったら・・・

間違った操作をしていませんか？

修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

- ◎ **電源が入らない!**
 - ・電池は正しく取り付けてありますか？
 - ・電池は消耗していませんか？
- ◎ **送信できない!**
 - ・PTT（送信ボタン）を正しく押していますか？
 - ・受信専用モードがONになっていませんか？
 - ・相手が話し中ではありませんか？

信号を受信しているときは、送信できません。

 - ・外部マイク使用の場合、きちんと最後まで差し込まれていますか？

- ◎ **通話できない!**
 - ・相手と同じ通話モード（ノーマルモード・グループモード）に設定していますか？
 - ・相手と同じチャンネルに設定していますか？
 - ・相手と同じグループ番号（またはDCSコード）に設定していますか？
 - ・プライバシーモードの場合、送信側・受信側ともプライバシーモードの設定がされていますか？

- ・相手との距離が離れすぎていませんか？

- ◎ **こちらの声が、相手側で小さく聞こえる!**
 - ・マイクホンを塞いでいませんか？
 - ・マイクから口元が離れていませんか？
 - ・音量は適正ですか？

- ◎ **勝手に電源が切れる!**
 - ・オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？
 - ・電池が消耗していませんか？

- ◎ **グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる!**
 - ・モニター機能になっていませんか？

電源ボタンを長押し（約1秒）して電源を切り、再度電源ボタンを長押し（約0.5秒）して電源を入れると解除されます。

 - ・他の人も同じグループ番号を使用している場合があります。グループ番号を変えてください。

正常に動かないとき

スイッチを押しても反応しないときや、『故障かな?と思ったら・・・』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

●リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

- ① 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- ② ▲ボタン、▼ボタン、MODE(On) ボタンを同時に押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- ③ 「ピッ」と鳴り、オールリセットされます。

定 格

送受信周波数：01ch～11ch: 422.0500MHz ～ 422.1750MHz
(12.5kHz ステップ) 1ch～ 9ch: 422.2000MHz ～ 422.3000MHz
中継装置使用時：
12ch～29ch: 送信 440.0250MHz ～ 440.2375MHz
受信 421.5750MHz ～ 421.7875MHz
10ch～18ch: 送信 440.2625MHz ～ 440.3625MHz
受信 421.8125MHz ～ 421.9125MHz

電 波 型 式：F3E
通 信 方 式：シンプレックス方式およびセミデュプレックス方式
送 信 出 力：10mW/1mW(中継チャンネル 12ch～29ch)以下(電波法施行規則第6条適合)
受 信 感 度：－7dBμV以下(@ 12dB SINAD)
低 周 波 出 力：400mW以上(@ 8Ω、THD10%)
電源電圧 3.7V
動作温度範囲：－10℃～+50℃
定 格 電 圧：DC 3.7V
動作電圧範囲：DC 2.2V ～ 4.5V
本 体 寸 法：99.5×55×30mm(高さ×幅×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず)
本 体 重 量：約 120g(アルカリ単3乾電池を含まず)

この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。 ※ RoHS 指令対応

オプション

- ◎ リチウムイオン電池パック：BN60
- ◎ リチウムイオン電池ケース：JCPLN0002
- ◎ シングル充電器（ACアダプタ付）：JCPCN0003
- ◎ 6連型充電器（ACアダプタ付）：JCPCN0004
- ◎ スピーカマイク：JSPMN0001
- ◎ ブームマイクイヤホン：JSPRN0003
- ◎ 小型タイピンマイク&イヤホン：JSPRN0001
- ◎ タイピンマイク&イヤホン（マイク感度切替え付）：JSPRN0002

セットメニューで設定する便利な使いかた

PTT（送信ボタン）を押さずに送信する

PTT（送信ボタン）を押さなくても、話を始めると自動的に送信状態になり、話をやめると受信状態に戻ります。

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- “Ac-oF” が表示されるまで、MODE(On) ボタンを何度か押します。
- ▲または▼ボタンで、“Ac-on” にあわせます。
- PTT（送信ボタン）を押します。設定操作を行う前の状態に戻ります。

- VOXの感度や遅延時間を、セットメニューで細かく設定することができます。詳しくは裏面の“セットメニューによる機能設定”をご確認ください。
- VOX機能はPTTホールド機能および自動マイク感度切替え機能と同時に利用することはできません。

空きチャンネルを自動で探す

PTT（送信ボタン）を押すと、そのとき空いているチャンネルに設定され（相手のトランシーバーも、自動的に同じチャンネルに設定されます）交信することができます。

- 相手のトランシーバーも、同じグループ番号（またはDCSコード）に合わせた後、オートチャンネルセレクト機能を“ON”にしてください。

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- “AL-oF” が表示されるまで、MODE(On) ボタンを何度か押します。
- ▲または▼ボタンで、“AL-on” にあわせます。
- PTT（送信ボタン）を押します。チャンネル表示が“AL”に変わり、自動的にグループモードになります。

この状態でPTT（送信ボタン）を約1.5秒以上押すと、相手と交信することができます。
●PTT（送信ボタン）を約1.5秒以上押さないと、相手局と交信することはできません。

自動でマイクの感度を切替える

周囲の騒音の状況に応じて、自動的に適切なマイク感度に切替わります。騒音の激しい場所と静かな場所を行き来するような場合に便利な機能です。

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- “AL-oF” が表示されるまで、MODE(On) ボタンを何度か押します。
- ▲または▼ボタンで、“AL-on” にあわせます。
- PTT（送信ボタン）を押します。設定操作を行う前の状態に戻ります。

- VOX機能と同時に利用することはできません。



セットメニューによる機能設定一覧

本機には22種類のセットメニューがあります。各メニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら電源ボタンを長押し（約0.5秒）して電源を入れます。セットメニューが表示されます。
- MODE(On) ボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わります。設定したいメニューを選択します。
- ▲または▼ボタンを押して、点滅している設定項目を選択します。
- PTT（送信ボタン）を押します。セットメニューの設定が終了します。

PTT（送信ボタン）以外に、電源ボタンを長押し（約1秒）して電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
	グループコード（01～36）の選択 <p>グループコードの番号を選択します。</p>	01～36	01
	PTTホールド機能のON/OFF <p>ONにすると、PTT（送信ボタン）を一度押すことにより、再度PTT（送信ボタン）を押すまで、送信状態が続きます。 ※ VOX機能と同時に利用することはできません。</p>	OFF/ON	OFF
	オートチャンネルセレクト機能のON/OFF <p>ONにすると、PTT（送信ボタン）を押した時に、誰も使用していないチャンネルを自動で選び、相手局と交信することができます（相手のトランシーバーも、オートチャンネルセレクト機能をONにしてください。）</p>	OFF/ON	OFF
	自動マイク感度切替え機能のON/OFF <p>ONにすると、声の大小に応じて、自動的に適切なマイク感度に切り替わります。 ※ VOX機能と同時に利用することはできません。</p>	OFF/ON	OFF
	外部マイク感度切替え機能 <p>オプションの外部マイクを使用する際、マイク感度を三段階で設定することができます。感度を低くするときは“1”、感度を高くするときは“3”に設定します。</p>	1/2/3	2
	VOX機能のON/OFF <p>ONにすると、PTT（送信ボタン）を押さなくても、話を始めると自動的に送信状態になり、話をやめると受信状態に戻ります。 ※ PTTホールド機能および自動マイク感度切替え機能と同時に利用することはできません。</p>	OFF/ON	OFF
	VOX感度設定 <p>VOX機能動作時、送信状態になる時の感度を設定します。周囲の騒音が大きく、話をしていないのに送信状態になる時などは、感度を下げて（数値を小さく）ください。</p>	1～15	8
	VOX遅延時間設定 <p>VOX機能動作時、話をやめてから受信状態に戻るまでの時間を、0秒（設定値“0”）～5秒（設定値“50”）の間で設定（約0.1秒間隔）できます。</p>	0～50	5(約0.5秒)
	受信専用モードのON/OFF（ガイドシステム子機などに使用のとき。VOX機能と同時に使用することはできません） <p>ONにすると、PTT（送信ボタン）を押しても「ブー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“ErF”と表示されて送信できません。</p>	OFF/ON	OFF
	ビーブ音のON/OFF <p>ボタンやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。この音が目障りなときはOFFに設定してください。</p>	ON/OFF	ON

送信を禁止して受信専用として使用する

ガイドシステム子機などに使用するとき、PTT（送信ボタン）を押しても「ブー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“ErF”と表示されて、送信できないようにすることができます。

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- “ro-oF” が表示されるまで、MODE(On) ボタンを何度か押します。
- ▲または▼ボタンで、“ro-on” にあわせます。
- PTT（送信ボタン）を押します。設定操作を行う前の状態に戻ります。

- VOX機能と同時に利用することはできません。

LEDインジケータを点灯しないようにする

送信時に“赤色”、信号受信時に“緑色”に点灯するLEDインジケータを、点灯しないようにすることができます。

電池の消耗を抑えたい時や、LEDの点灯が目障りな場合は“OFF”にしてください。

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- “LE-on” が表示されるまで、MODE(On) ボタンを何度か押します。
- ▲または▼ボタンで、“LE-oF” にあわせます。
- PTT（送信ボタン）を押します。設定操作を行う前の状態に戻ります。

チャンネルの表示方法を切替える

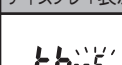
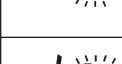
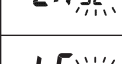
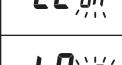
チャンネルの表示方法を、下記の2通りから選択することができます。チャンネル表示方法が異なるトランシーバーと交信する場合、相手のチャンネル表示方法に合わせるができます。

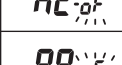
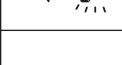

- 電源ボタンを長押し（約1秒）して、電源を切ります。
- MODE(On) ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約0.5秒）して、電源を入れます。
- “Ch-St” が表示されるまで、MODE(On) ボタンを何度か押します。
- ▲または▼ボタンで、希望の表示方法にあわせます。


47に設定：01⇒02⇒03⇒04⇒05⇒・・・⇒15⇒16⇒17⇒18⇒19⇒20
Stに設定：1⇒2⇒3⇒・・・⇒7⇒8⇒9⇒01⇒02⇒03⇒・・・⇒09⇒10⇒11

- PTT（送信ボタン）を押します。設定操作を行う前の状態に戻ります。

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
	送信ビーブ音のON/OFF <p>ONにすると、送信を始めた際に電子音が鳴ります。外部マイクでVOX機能を使用するときなど、送信状態になったことを音で確認することができます。</p>	OFF/ON	OFF
	チャンネル表示の切替え <p>チャンネルの表示を、01～47の表示（47に設定した場合）、または、1～9、01～11の表示（Stに設定した場合）に、切替えることができます。</p>	St/47	St
	LEDインジケータのON/OFF <p>OFFにすると、送信時にLEDインジケータが点灯しないようになります。</p>	ON/OFF	ON
	照明ランプ設定 <p>通常は“2”に設定されており、ボタンを押すと照明ランプが約2秒間点灯します。OFFにすると、照明ランプを常時消灯することができます。</p>	2/ OFF	2

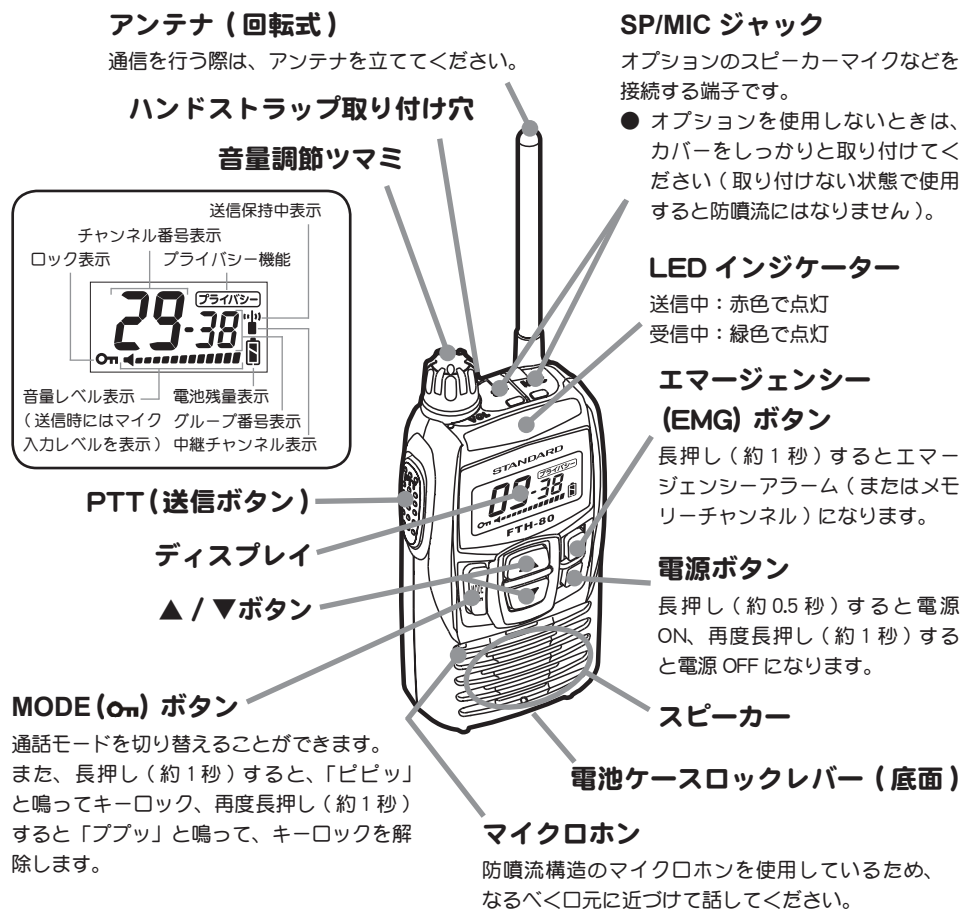
	コンパンダー機能 <p>ONにすると、相手が話しているときに聞こえる「サー」というバックノイズを軽減し、相手の音声を聞き取りやすくします（相手のトランシーバーも、コンパンダー機能をONにしてください。）</p>	OFF/ON	OFF
	音質切替え機能 <p>ONにすると、高域が強調された音質になります。</p>	OFF/ON	OFF
	オートパワーセーブのON/OFF <p>ONにすると、2時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源をOFFにします。1分前に「ピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。</p>	OFF/ON	OFF
	コール音回数（1～5）の選択 <p>コール音で呼び出している“コールトーン機能”が動作時の、コール音が鳴る回数を選択できます。1～5のいずれかの数字を電子音の回数が送信します。送信中にMODE(On) ボタンを押している間、コール音を選択した回数送ることになります。通常は“1”に設定されています。</p>	1～5	1

	PTTダイヤレ機能のON/OFF（グループモード） <p>相手の話が終わり、待ち受け状態になると聞こえる「ザツツ」という耳障りなノイズ音をカットして受信します（相手のトランシーバーも、PTTダイヤレ機能をONにしてください。）</p>	ON/OFF	ON
	エマージェンシー機能の設定（アラームまたはメモリーチャンネルの選択） <p>“1”：緊急アラーム音で緊急を知らせる“アラーム”の動作になります。“2”：あらかじめ決めておいた緊急連絡用のチャンネル（メモリーチャンネル）に自動的に切り替わります。</p>	1/2	1
	中継機能使用時の送信出力の切り換え <p>中継機能時に使用する、12ch～29chにあわせたときの送信出力（アンテナから出力される電波の強さ）を切り替えることができます。“1”：送信出力が1mWに設定され、中継機能使用時に3分以上の連続送信が可能になります。“10”：送信出力が10mWに設定され、連続して送信できる時間は3分以内になります。</p>	1/10	10

	コールバック機能のON/OFF <p>ONにすると、通話できる範囲にいるか、または電源を切っていないか、常時チェックできます。</p>	OFF/ON	OFF
---	---	--------	-----

基本的な使いかた

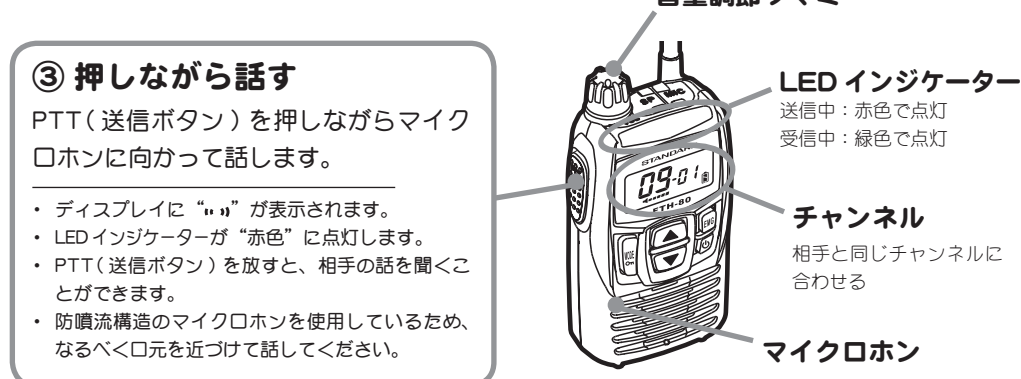
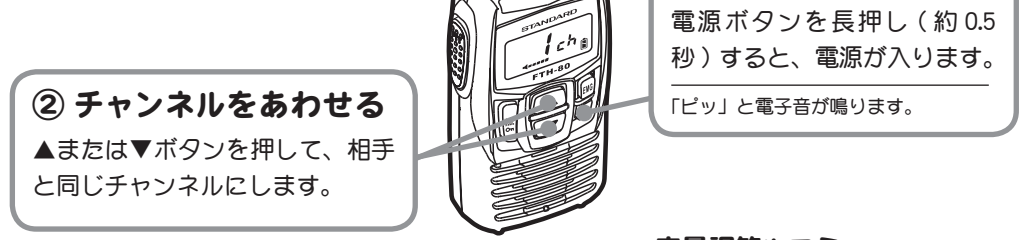
各部のなまえ



基本的な通話のしかた

本機には、状況に応じて選べる3つの通話方法 (ノーマルモード、グループモード、プライバシーモード) があります。通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは、基本となるノーマルモードの通話方法を説明し、グループモードについては、右記の“グループモードの設定”を行い、プライバシーモードについては、右記の“プライバシーモードの設定”を行ってから、下記の方法で通話してください。

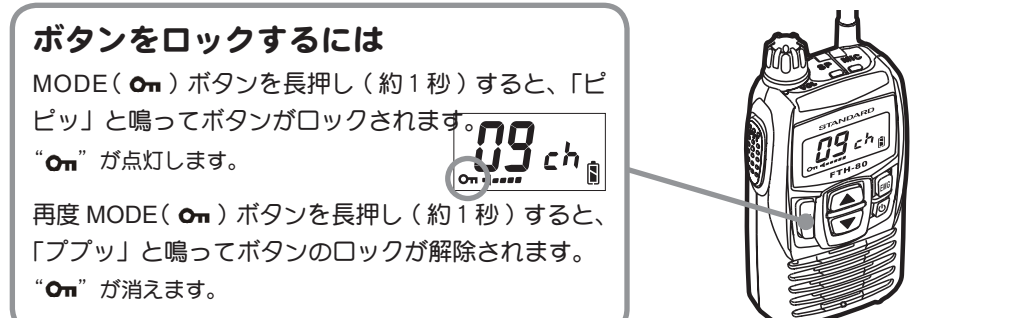
- 選べるチャンネルは、合計 47 チャンネルです。
交互通話用 (1ch ~ 9ch, 01ch ~ 11ch)
中継通話用* (12ch ~ 29ch, 10ch ~ 18ch)
※ 設定が必要です。



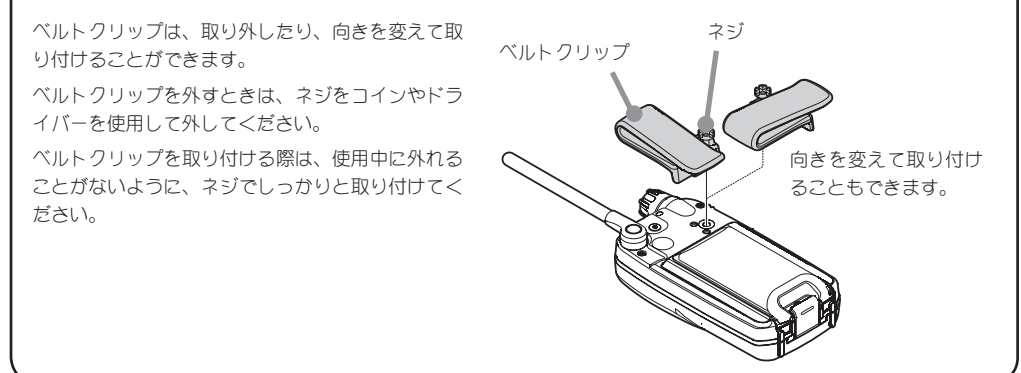
- 相手の声を聞きながら、音量調節つまみで音量を調節してください。
- 連続して送信できる時間は3分以内です。
3分間連続して送信し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウン表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ビビピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の 2 秒間は PTT (送信ボタン) を押しても「ブープブープ・・・」と警告音が鳴り送信できません。
- 相手の信号を受信しているときは、送信できません。
LED インジケータが緑色に点灯しているときは、PTT (送信ボタン) を押しても「ブープブープ・・・」と警告音が鳴るだけで、送信できません。

ボタンをロックする

- ボタンをロックすると、セットメニューによる設定の変更やオールリセットもできなくなります。これらの操作は、ロックを解除してから行ってください。



ベルトクリップの取り外しかた / 向きの変えかた



便利な使いかた

一時的にモニターをする

受信信号の状態を、一時的にモニターする機能です。

- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ② ▼ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。

モニターを解除するには、

- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ② 再度電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。

Radio Communication Solutions
株式会社 ジャパン エニックス
JAPAN ENIX CO., LTD.

□ 本 社 東京都品川区南品川 2-7-18 TEL 03-5715-2351
□ 関 西 支 店 大阪府西区千代崎 1-24-11 TEL 06-6583-7700

□ 札幌営業所 □ 名古屋営業所
□ 仙台営業所 □ 九州営業所

https://www.jenix.co.jp/



便利な使いかた

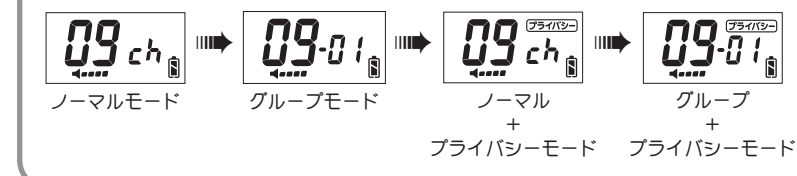
通話モードの切り替えかた

通話を行うモード (通話モード) として、次の3通りの方法があります。状況に応じて使い分けてください。

- ノーマルモード ➡ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。
- グループモード ➡ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき。
チャンネル番号とグループ番号が一致すると通話ができます。
- プライバシーモード ➡ 他人に通話を聞かれないとき。

通話モードを切り替えるには

MODE (Om) ボタンを押すたびにモードが切り替わります。
初期値は “ノーマルモード” に設定されています。



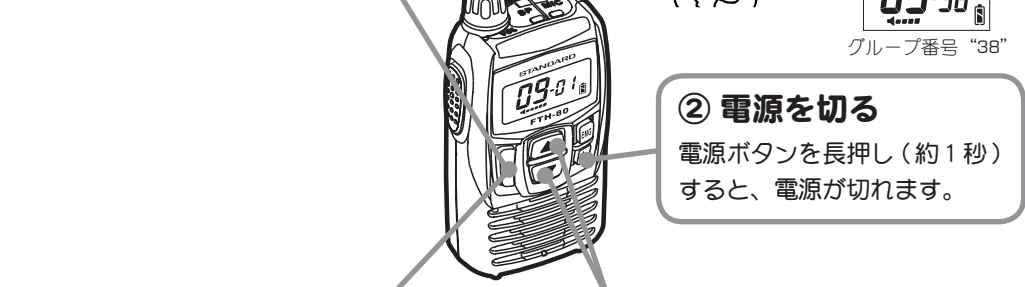
グループモードの設定

「同じチャンネルで他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループ番号に設定しておくと同僚同士の音声だけが聞こえます。

グループモードにすると、受信終了時の「ザーツ」音をカットして聞きやすくなります。オプションのタイピンマイク & イヤホンや、ブームマイク & イヤホンを使用される場合は、グループモードで使用されることをおすすめします (詳細は “セットメニューによる機能設定” の “PTT ティレィ機能” を参照ください)。

① MODE (Om) ボタンを押す

グループモードにします。



③ MODE (Om) ボタンを押しながら電源を入れる

▲または▼ボタンを押して “01 ~ 38” のセットメニューの “GP-01” が表示されます。

④ グループ番号を選ぶ

▲または▼ボタンを押して “01 ~ 38” の中から任意のグループ番号を選択します。

⑤ PTT (送信ボタン) を押す

セットメニューの設定が終了します。
左記の “基本的な通話のしかた” と同様に通話します。

他人の通話が聞こえる場合は、グループ番号を変更してください。

DCS コードに切り替える

グループモードで、グループコード (38 種類) が不足した時など、グループコードに替えて、104 種類の DCS コード (d023 ~ d754) を使用することができます。

- 中継機能を使用するときは、DCS コードを使用することはできません。
- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ② EMG ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。
- ③ DCS コード設定状態になり、“off” が点滅しています。▲または▼ボタンを押して、“d023 ~ d754” の中から、希望の DCS コードを選択します。
- ④ PTT (送信ボタン) を押します。
DCS コードが設定され、グループコードの代わりに “dc” が表示されます。
PTT (送信ボタン) 以外に、電源ボタンを長押し (約 1 秒) して電源を切っても、DCS コードの設定を完了させることができます。
- ⑤ 上記の “通話モードの切り替えかた” のグループモードと同様に通話することができます。
EMG ボタンを短く押すと、信号を受信した相手をコール音 (ビビビ・・・) で、呼び出すことができます。

■設定の解除・変更のしかた

- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ② EMG ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。
- ③ 現在設定されている DCS コード “dxxx” が点滅するので、▲または▼ボタンを押して、“off” (解除) または別の DCS コードを選択します。
- ④ PTT (送信ボタン) を押します。
DCS コード設定が終了し、ノーマルモードに戻ります。

■DCS コードの確認

- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ② EMG ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。
- ③ 現在設定されている DCS コード “dxxx” が点滅します。
- ④ 確認が終わったら、PTT (送信ボタン) を押します。

通話距離をのばすには - 中継機能 -

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店または、八重洲無線株式会社国内営業部 (表紙参照) にお問い合わせください。

- メモリーチャンネルを設定 (下記の “メモリーチャンネルの設定方法” 参照) した後で、下記の中継機能用チャンネルの追加または、削除を行った場合は、“Ec” の設定が “2” から “1” になり、メモリーチャンネルが消失されますので、再度メモリーチャンネルを設定しなおしてください。

■設定のしかた

- 下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル (合計 27 チャンネル) が追加されます。
- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
 - ② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
 - ③ ▲または▼ボタンを押すたびに、チャンネル番号が変わります

■設定を解除するには

- ① 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。

■通話のしかた

- ① ▲または▼ボタンを押して、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせてみます。
- ② “基本的な通話のしかた” と同様に通話します。
- グループモードを使用することができます (中継器と同じグループ番号にあわせてください)。
- 指定の中継器のみ使用可能です。

通話可能か常時チェックしたい - コールバック機能 -

グループモード時に、あらかじめ下記の設定を行っておくと、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」、常時チェックしながら通話ができます。

- ① MODE ボタンを押してグループモードにします。
仲間同士で決めたグループ番号とチャンネル番号になっているか確認します。
- ② 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ③ MODE ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。
- ④ MODE ボタンを何度か押して “cb-off” を選択します。
- ⑤ ▲ボタンまたは▼ボタンを押して “cb-on” にします。
- ⑥ 通話 (PTT) スイッチを押します。
セットメニューの設定が終了し、ディスプレイに “dc” と “グループ番号” が交互に点灯します。
- ⑦ 左記の “基本的な通話のしかた” と同様に通話します。

■通話可能か確認するには (電子音とディスプレイの表示で確認できます)

	状 況	電子音	表 示
通話可能	・相手と通信できる範囲にいる ・相手の電源が入っている	約 1 分後に一度だけ「ビピッ」と鳴る	電子音が鳴った後 “n” とグループ番号が交互に点灯する 9-n → 9-01
通話不可能	・相手と通信できない場所にいる ・相手の電源が切れている	約 1 分後に一度だけ「ブプッ」と鳴る	電子音が鳴った後 “ot” とグループ番号が交互に点灯する 9-ot → 9-01

- 同じチャンネルで同じコードナンバーが他の使用者に使われているときは、“グループモードの設定” を参照して、仲間同士で他のグループ番号に切り替えてください。
- 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが受信状態になり、通話できません。

緊急を知らせたい - エマージェンシー機能 -

緊急アラーム音で緊急を知らせたり、あらかじめ決めておいた緊急連絡用のチャンネル (メモリーチャンネル) に自動的に切り替えることができます。エマージェンシー機能を使用するためには、あらかじめセットメニューの “Ec” (エマージェンシー機能の設定) を、アラーム (“1”) またはメモリーチャンネル (“2”) から選択する必要があります (初期値は “1”)。設定方法は “セットメニューによる機能設定一覧” でご覧ください。

- アラーム (セットメニューの “Ec” を “1” に設定した場合)
EMG (エマージェンシー) ボタンを 1 秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作し、自動的にスピーカー音量が最大になり、“ビープビープ・・・” とアラーム音が鳴り続け、周囲の人に緊急を知らせることができます。
- チャンネルとグループコード (DCS コードが設定されているときは “dc”) が点滅します。
- 一度 PTT (送信ボタン) を押すと、4 秒間隔で “ビーツ” を送信し、相手のスピーカーからも “ビーツ” 音を鳴らして呼び続けることができます。
- PTT (送信ボタン) を押している間、アラーム音を中断して通話することができます。また、受信側もアラーム音を中断して、受信することができます。
- アラームに設定する場合は、イヤピースマイクロホン、ヘッドセット、イヤホンなどは、トランシーバーに接続しないでください。
- エマージェンシー機能が動作中は、▲/▼ボタンおよび MODE ボタンは動作しませんが、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。
- 協話モードを設定しているときにアラーム音を受信すると、アラーム (ビー音) の音程は少し低くなります。

- メモリーチャンネル (セットメニューの “Ec” を “2” に設定した場合)
EMG (エマージェンシー) ボタンを 1 秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作し、あらかじめ設定したメモリーチャンネル (下記の “メモリーチャンネルの設定方法” 参照) に切り替わります。
- チャンネルとグループコード (DCS コードが設定されているときは “dc”) が点滅します。
- メモリーチャンネルで通話 (緊急連絡) ができます。
- エマージェンシー機能が動作中は、▲/▼ボタンおよび MODE ボタンは動作しませんが、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。

- エマージェンシー (アラーム / メモリーチャンネル) 機能を終了するには
EMG (エマージェンシー) ボタンを 1 秒以上押すか、電源を切ると、エマージェンシー機能が OFF になります。

メモリーチャンネルの設定方法

- ① ▲または▼ボタンを押して、メモリーチャンネルにしたいチャンネル番号にあわせ、MODE ボタンで希望のモードに切り替えます。
- ② 電源ボタンを長押し (約 1 秒) して、電源を切ります。
- ③ MODE ボタンを押しながら電源ボタンを長押し (約 0.5 秒) して、電源を入れます。
セットメニューの “GPxx” が表示されます。
- ④ MODE ボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わりますので、“Eo-1” を選択します。
- ⑤ ▲または▼ボタンを押して、点滅している数字を “2” にあわせ、PTT (送信ボタン) を押します。
メモリーチャンネルが設定され、設定を行う前の状態に戻ります。
- メモリーチャンネルを変更する場合は、再度上記の操作をおこない、操作④で数字を “1” にあわせて、“アラーム” にしてください。その後、再度上記①から⑤の操作をおこなってください。